

第2章

学習に関する意識・実態と 学力の関連

- 「学習に関する意識・実態調査」と
「進研模試」のクロス分析より -



分析にあたって

1. 「学力」の意味について

今回の分析では、「進研模試」(ベネッセコーポレーション実施の模擬試験)の結果を「学力」とみなし、「学習に関する意識・実態調査」の結果とクロスさせて分析している。それは、この試験が、当該学年の学習の目標が達成されているかどうかを客観的に把握するとともに、幅広い資質・能力が測定できる内容であると考えためである。

しかし、測定する資質・能力は、筆記形式で短時間に行う1回限りのテストの範囲にならざるを得ないという制約があり、ある程度は限られた範囲の「学力」を測定していることは間違いない。また、実施教科も数学、国語、英語の3教科にとどまる。この点に留意して、調査結果をみる必要があると考える。

今後、さまざまなタイプの問題開発や経年での実施などによって、より包括的な「学力」の把握が必要だが、今回は1つの試みとして調査実施、分析を行った。

2. 「進研模試」の出題の方針

進学を前提とした高校生にとって解答しがいがあり、かつ受験生の弁別ができる内容・構成になる出題を行う。出題範囲は、2年生1学期までの履修内容で、履修形態や進捗状況について全国960校以上の高校を調査し、その集計に基づいて決定する。

3. 出題の範囲

●数学(実施100分)

[数学Ⅹ] 共通問題＝数学Ⅰ全範囲/数と式、選択問題＝数学Ⅰ/図形と式/数と式/数列(漸化式を除く)より2題選択

[数学Ⅲ] 共通問題＝数学Ⅰ全範囲/数と式、選択問題＝三角関数/図形と式より1題、数列(漸化式を除く)/ベクトル(空間ベクトルを除く)/複素数より1題選択
履修状況によりⅩ、Ⅲのいずれかを選択。ただし、難易度は揃えてある。

●国語(実施80分)

現代文・評論/現代文・小説/古文/漢文

●英語(実施80分)

共通問題＝発音・アクセント/文法・語法/長文読解(2題)/表現力、選択問題＝リスニング/会話表現より1題選択

4. 「学力」の階層化

本章の分析のために、試験によって測定した得点を以下の手続きにより階層化した。

- (1) 数学、国語、英語の合計の得点を偏差値に換算する。
- (2) 偏差値60以上を「学力上位階層」、55以上60未満を「学力中上位階層」、50以上55未満を「学力中位階層」、45以上50未満を「学力中下位階層」、45未満を「学力下位階層」として、3教科合計の学力階層を出す。

この結果、3教科合計の学力階層の合計人数および性別人数は表2-0-1、学校ランク別の学力階層は表2-0-2のようになった。

5. 調査対象の特徴

有効調査対象者の数学、国語、英語、3教科合計の偏差値は、表2-0-3のようになる。偏差値の平均値は各教科、3教科合計ともに、52から53で、「進研模試」全体の受験者の中では、やや上方に偏った層を対象としていることになる。

表2-0-1 3教科合計の学力階層（合計／性別） 人数（％）

	合 計	性 別	
		男 子	女 子
学力上位階層（偏差値60以上）	740（25.6）	414（27.6）	326（23.5）
学力中上位階層（55以上60未満）	486（16.8）	250（16.7）	236（17.0）
学力中位階層（50以上55未満）	531（18.4）	282（18.8）	249（17.9）
学力中下位階層（45以上50未満）	516（17.9）	254（16.9）	262（18.8）
学力下位階層（偏差値45未満）	617（21.3）	300（20.0）	317（22.8）
合 計	2,890（100.0）	1,500（100.0）	1,390（100.0）

調査対象3,106名のうち、216名は数学、国語、英語のいずれかを未受験であった。

表2-0-2 3教科合計の学力階層（学校ランク別）（％）

	学校ランク			
	上位ランク校 （偏差値55以上）	中上位ランク校 （50以上55未満）	中下位ランク校 （45以上50未満）	下位ランク校 （偏差値45未満）
学力上位階層（偏差値60以上）	51.6	15.9	5.5	1.3
学力中上位階層（55以上60未満）	19.5	23.3	13.9	3.6
学力中位階層（50以上55未満）	15.6	27.2	16.9	12.2
学力中下位階層（45以上50未満）	9.5	22.3	23.0	24.8
学力下位階層（偏差値45未満）	3.9	11.2	40.8	58.1

表2-0-3 偏差値平均

	受験者数	偏差値平均
数 学	2,910	52.33
国 語	3,085	53.56
英 語	3,092	53.60
3教科合計	2,890	53.41